組NEWS合

Faculty and Staff Union of Kanazawa University

発行：金沢大学教職員組合執行委員会

住所：金沢市角間町　　角間内線２１０５
直通電話(076)262-6009（FAX同じ）
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org

2009年2月13日

通巻1099号

この号の内容

全学集会	１P
全学集会決議	２P
非常勤雇い止め問題	３P
新年会・活動日誌	４P

2.6全学集会開催される

大学の将来を憂い、多数の教員が参集し、冷静かつ真剣な意見交換が行われる。

去る２月６日、理工学域系の講義棟において組合本会主催の全学集会が開催された。これは次期中期計画について、全学の教員が情報を共有し、お互いの状況を理解する目的で行われた。とりわけ次期中期計画で言及されている任期制の拡大やテニュア・トラック制度は、教職員の労働条件と環境に直結するものであり、組合としては是非とも取り上げなければいけない問題である。議事の進行状況は２月１０日付けの速報に実況版として出ているのでそちらを参考にしていただくとして、本記事では全体的な様子をまとめようと思う。

全体を振り返って思うことは、全学集会の意義である。任期制の問題はまず北支部が問題視し、それが本会を動かしたといって良いだろう。北支部から運動が始まったのは、中期計画についての資料が人文系で公表されたことによる。学類会議で資料が開示されたところや、系のメーリングリストによって回送された部署など入手方法は異なるが、なんの予告もなく示された「大学全体で3割の任期ポストを目指す」という文言は非常にショッキングなものであった。最初は女性部の有志が行動を起こし、各方面への強力なアピールを繰り広げた結果、１月３０日には北支部の主催によって教研集会が開かれた。筆者はそれにも出席していたが、任期制による労働環境への悪影響（とりわけ同じ職務にもかかわらず身分が異なるという二重体制）について議論が繰り広げられたことが大変印象に残っている。こうした北支部での活発な運動が契機となって今回の全学集会が行われたのであるが（ここに至るまでも、組合事務所において青年有志による数回の会合での熱心な意見交換などがあったことを強調しておきたい）、昼休みの４５分間という大変短い時間にもかかわらず、大きな成果があった。

最大の成果は、各部署の意見を共有できたことである。最初は人文系、次に理工系、最後に医薬系、それぞれの立場から報告をいただいた。筆者の印象では情熱的に任期制に反対する人文系、それに比べるとやや落ち着いた反応の理工系、現状を踏まえた現実的な医薬系というものであった。もちろんプレゼンターの個性も影響しているが、それぞれの立場を物語っているとも受け止められる。そもそも人文系の教員の研究テーマは期間限定で成果を出しにくいものも多く、それゆえ従来型の雇用を前提とした研究手法を採っている分野も少なくない。こうした分野ではテニュア・トラックなどの任期制の導入は死活問題になりかねないのである。一方、理工系にはそうしたプロジェクト型の研究手法に慣れている部門も多く、任期付き雇用に対しては文系ほど抵抗感がないと聞いている。全学集会での両者の反応の差異は、こうした実情を反映しているのではないだろうか。こうした2つの立場を仲立ちするものが、既に任期制が導入された医薬系からの報告だったと思う。任期制がどのような雰囲気の中で導入されたのか、また、一旦導入されたらそれを覆すことがいかに大変なことか、という発表は大変説得力があった。

こうした報告発表がかなりの部分を占めたため、全体で議論を行うということは残念ながらほとんどできなかった。しかしながら、各地区の立場を反映した意見を聞けたことはとても有用であった。とりわけ医薬系のプレゼンターが示された、角間や宝町といった地区ごとではなく、全学が一体となって次期中期計画に取り組まなければならないという主張と、それに対する出席者の賛同の拍手は、全学集会の意義を端的に示すものと思われる。

（Y）

「第2期中期目標・計画に関する」全学集会決議

第2期中期目標・計画は、次年度以降6年間の金沢大学の研究教育の基本を定めるものであり、その達成のための各組織での諸計画の最上位に置かれるものであります。また掲げた目標・計画について、大学全体が中間時点を含めて、評価されるものです。現在進められている第1期の評価においては、各大学の未達成部分は厳しく査定されています。

今回、大学当局は目標・計画の骨格となる部分（素案）を秘密裏に作成しようとしていましたが、研究に関する部分の骨格として、任期制を全学で30%以上とする大幅な数値目標が設定されていることが明らかとなりました。組合はこの事実を教職員に知らせるために速報体制をとり、任期制の問題点を訴えてきました。

中期計画問題が表面化した時点で、組合は素案文書を直ちに開示する事を要求しました。これによって研究教育の単位組織からの起案部分や構成員による民主的検討を保障するよう求めました。1月末日を期限として要求しましたが、実行されませんでした。

当局は教職員の反発を恐れ、学類長等までに文書を示し、そこからの意見聴取を行うことで、秘密対応はしていないと強弁しています。しかし、学類長などは構成員に文書やその内容をどの程度示すかについて悩んでいるとか、事務レベルではその行為は処分事項になると指示が出ているなどの風聞が行きかいました。

2月6日までに学類長などが提出された文書は、一般には分量も限られ、構成員の意見が十分反映されることは困難と言われています。今後同じ事が繰返されては、第2期中期目標・計画は、結局、大学上層部が勝手に作ったものになってしまいます。第1期の策定においては、内容が開示され、各組織での検討がなされていましたので、今期については、大学の姿勢が大きく後退した事になります。

私たちはこれまでの当局の対応に抗議するとともに、速やかに中期目標・計画の文書を開示することで、教職員全体で中期計画を作成することになるよう強く要求します。特に、任期制に関係する部分は白紙撤回を求めます。

2009．2．6

「第2期中期目標・計画に関する」全学集会

京大で100人雇い止めへ
非常勤職員、10年度から

京都大が２０１０年度中に契約期限を迎える非常勤職員約１００人について、契約を更新せず「雇い止め」にすることが２３日、分かった。

厳しい財務状況を背景に、各地の国立大でも同様の動きがあり、学内からは「非常勤職員が教育、研究活動を支えている職場の実態を考慮していない」と反発の声が上がっている。

雇い止めの対象となるのは、０５年度に採用された非常勤職員。京大は０５年３月に就業規則を改定し、同年４月以降に採用された職員の契約期限を上限５年としたため、１０年度以降は契約満了となる職員がいる。

京大によると、昨年１２月現在、時給制で働く非常勤職員は約２６００人。うち約１３００人は就業規則の改定後に採用された。京大職員組合の調査では、少なくとも９０人が勤務継続を希望しているという。

国から京大への運営費交付金は毎年約１０億円ずつ減額され、常勤職員数や人件費も抑制傾向が続いている。

一方で研究室などの職場では、削減された常勤職員の仕事を肩代わりし、非常勤職員の負担が実質的に増えているという。

京大人事企画課は「非常勤職員の業務は臨時的で補助的。雇用期間の上限は採用時に個別に伝えており、トラブルにはならない」としている。

2009/01/23　【共同通信】　ホーム　共同ニュース

金大など予定なし

金大では、昨年5月末現在、非常勤職員を922人採用している。契約は一年更新で雇い止めの予定は現在のところないが、「経費削減策の1つとして他大学の状況を参考にしたい」（人事課）としている。

上記関連記事より…
北国新聞1月24日付、

53国立大1300人超雇い止め
09年度、契約上限見直しも

全国87の国立大のうち、09年度中に契約満了で「雇い止め」となる非常勤職員は少なくとも53大学で計1355人に上ることが7日、共同通信のアンケートで分かった。28大学が「研究や業務に支障が出る」などとして、契約期間の上限見直しを実施済みか、検討中だった。

非正規労働者の雇い止めが問題化する中、緊縮財政を迫られている各大学が専門知識を備えた人材確保に苦慮している実態が明らかになった。

アンケートは1月下旬～2月初めに、全87大学の人事担当部署から聞き取りをした。76大学（87％）が非常勤職員について「就業規則で契約期間の上限を定めている」と回答。09年度中に契約満了となる非常勤職員の人数を挙げたのは32都道府県の53大学（61％）。

上限を3～5年の間で設定しているのは69大学（79％）。最長は大阪大の「6～10年」で、上限を設けていない11大学（13％）は必要に応じ1年ごとに契約更新していた。

上限の延長や撤廃を実施または検討中としたのは28大学（32％）。理由は「優秀な人でも勤務が3年間に限定され、組織の職務遂行能力が維持できない」（山梨大）、「長期の研究に支障が出る」（佐賀大）などで、職員の入れ替わりが研究活動の障害となっている実情が浮かんだ。

2月7日
【共同通信】ホーム　共同ニュース

新年会

1月２３日（金曜日）に組合の新年会が開かれました。1月の末の忙しいなか、退職者１０人を含む６５人の参加者がありました。直江委員長の挨拶に続き

數見女性部部長による乾杯で会が進みました。各分会ごとにかたまらずに日頃話をしない方とも話せるように、今年はくじで席を決めました。はじめのうちは、あまり話も弾まないようでしたが、それもほんの始めのうちだけで、各テーブルともあっというまに話が盛り上がっていたようです。しばらくの歓談ののち、今年度で退職される組合員の皆さんへの記念品の贈呈と退職者の挨拶がありました。今年は、時間の関係上代表の方だけの挨拶となりましたが、代表した田崎先生から元気溢れるご挨拶をいただきました。

会の後半には、琴尺八部の学生さんによる演奏がありました。素晴らしい演奏への急なアンコールにも快く応じていただきました。また、ビンゴゲームにより盛り上がり、あっという間に2時間がたち、最後には大谷書記長の締めのあいさつで、盛況のうちに会は終わりました。会は終始和やかな雰囲気で、普段出会うことが無い職場の方々とも懇親が深まった印象を受けました。これからの金大組合のネットワークがさらに広まり、活動も活発になっていく感じを受けました。

（S・1）

教職員共済

教職員共済は退職後もご利用できます！。

今春ご退職される皆様、退職見舞金申請の手続きはお済みでしょうか？

また、他大学へ異動なさる皆様変更手続きはお忘れなく組合事務所へお知らせ下さい。

共済のお問い合わせは　組合まで。

活動日誌

1月

8日　第8回執行委員会
15日　女性部役員会、執行部四役会議
16日　教職員共済事務担当者会議（東京）
19日　女性部「中期目標・計画」担当者会議
20日　教職員共済「退職者共済説明会」
　　女性部「中期目標・計画」担当者会議
22日　第9回執行委員会
　　女性部「中期目標・計画」意見書理事へ
23日　女性部「中期目標・計画」意見書学長へ
　　新年会　ＫＫＲ　ホテル金沢
27日　第2回女性部役員会
　　将来検討委員
29日　若手教員の交流会「中期計画問題」
30日　将来検討委員会